

## スケッチ

野生動物研究室教授 高槻成紀

講義や実習が多い。国立大学にいたときには想像もできない多さだ。かなわないと思うこともあるが、しかし大事なことだと自分に言い聞かせるようにしている。一生懸命に話し手も反応がないと、やはりがっかりするし、反応がいいと報われた気がする。学生数が100人を超えると、話すほうの心理にも影響がある。マイクがあり、プロジェクターがあるのだから、「フィジカル」には少人数のときと違いはないはずだが、実際にはとても疲労感がある。たぶんコンサートなどでも同じのだと思う。多人数のもっている一種の「気」のようなものがあるのかもしれない、などと思う。一学年の学生が150人もいれば、やむをえないことである。

しかし3年生になると講義を聴く学生の数はぐっと少なくなる。受講者が数十人という講義もあるようだが、私の場合は20人程度のものが多い。こうなると、マイクなしで、話しかけるような形になるから、疲労感も少ない。

この大学に来て、一年目は講義数も少なかったのだが、昨年度から新しいカリキュラムが始まり、級に講義数が増えた。そのときに、以前から漠然と思っていたことを実現してみることにした。それはスケッチだ。私自身が絵を描くことが好きだということが背景にあるのだが、大義名分もあった。それはスケッチは生物学の基本だという信念があるからだ。当たり前のことだ

が、すべての学問は対象物をよく見ることなしにはありえない。生物を見るにはスケッチは最もすぐれた方法であろう。現に長いあいだ、生物学教育においてスケッチがおこなわれてきた。解剖図にはほれぼれするようにすばらしいものがある。そのすばらしさは正確であり、かつ美しいことにある。

しかし大学教育においてスケッチはおこなわれなくなりつつある。生物学の発展はマイクロ技術に支えられ、実は間接的に対象生物を見ることが主流になっている。心臓の動きをとらえるために、映像にとり、それを画像処理してグラフ上に動きをグラフで表示するというようなことをする。心臓そのものを見てはいない。見ているのはパソコンの画面である。

最先端の器機がデジタルでバーチャルであるとすれば、スケッチこそはアナログでリアルである。先端器機の「バーチャルさ」にはさまざまな程度がある。写真だって本当に対象を見てはいない。とくに自動撮影カメラはまさに観察者不在である。

こうした器機が生物学を発展させたことは疑いのないことであり、その技術を習得することが実習に必要なことである。それは認めるのだが、その上でやはり、本物を見ることの大切さは不動であると思う。そうしたことから、私は演習でスケッチをさせることにした。

演習を選んだ学生は10人あまりである。スケッチなどという「古くさい」ことをする演習は「技術の習得には役立たない」という理由で選択者が少ないのであれば、その向学心はなかなか見上げたものだ（私はそれを疑うが）。ともかく、少人数の学生を相手にスケッチを中心とした演習をした。

初めに何も見ないで3種ほどの動物を描かせた。それを見ると、共通していたのは「ぬいぐるみ調」ということであった。たいていは頭と目が大きく、様式化されたもの、たとえばタヌキであれば目の周りを黒くし、ブタであれば楕円形の中に2つの穴のある鼻を描いている。草食獣の脚は円筒状であったり、後肢の「ひざ」が前に曲がっているなど、解剖学的には間違いだらけである。「対象を見ないで描く」ことがいかにむずかしいかがよくわかる。

そのあと、四肢骨などのスケッチ、頭骨のスケッチや計測などをし、表現の技術などを教える。そのあとで、実際の動物を見て描かせると、まちがいはなく上達している。上達どころか、多くの学生の描く動物は、最初のとくに想像しながら描いたものとは、同じ人が描いたとは思えないほど正確ですばらしいものになっている。

最近の生物学の論文を見ても動植物のスケッチをみることはほとんどない。ときどきそれらしいものを見かけることはあるが、たいていはパソコンで楕円形などを寄せ集めたもので、正確でなくまったく美しくない。私は幾何学模様を寄せ集めて平気で動植物の絵のつもりでいる研究者の感覚を疑う。そういう人は対象とする動植物をじっくり観察し、そこに進化の結果としてできた形態的、機能的な美しさを見いださないのだろうか。「パソコン画」で済ませることに抵抗はないのだろうか。もし、そうした感覚が、学生時代にスケッチをする体験がないことによるのだとすれば、教育する側は反省をする必要があるだろう。学生にとっては、時間をかける割には「新しい技術を習得した」という感覚はないかもしれないし、本人には成長したという実感はないのかもしれない。しかし、私はスケッチを体験した学生が生き物をよく見るようになったと感じている。

私はこれからも迷わずスケッチをさせることを続けたいと思っている。ほかの学問は知らないが生物学において動植物をよく見るにはスケッチに如くものはないと信じて。